

地域再生計画 事後評価シート

とよた「暮らし満足都市」地域交流計画

令和3年3月

愛知県、豊田市

地域再生計画（地方創生道整備推進交付金）事後評価調書

都道府県名	愛知県	事業実施主体	愛知県、豊田市	地域再生計画名	とよた「暮らし満足都市」地域交流計画
計画期間	平成27年度～令和元年度	評価責任者	豊田市建設部 部長 岡本哲志		

	指標	基準値		中間目標値			最終目標値			事後評価	最終目標値の実現状況に関する評価		
		基準年度		年度	中間実績	基準年度	最終実績	年度					
①地域再生計画に記載した数値目標の実現状況	指標 1	豊田市長く住みたいと思う市民の割合の増加	79.6%	H23	85.0%	H29	77.7% (H28)	86.2%	H31	78.1%	R1	△	現状では目標値を下回る結果となったが、市道整備と林道整備の一体的な実施により、「豊田市の住みよさ」や「居住地域への愛着」は向上しており、定住意識が向上したものとする。
	指標 2	市内で採れた農産物を購入するよう心がけている市民の割合の増加	62.1%	H23	65.1%	H29	58.4% (H28)	67.1%	H31	55.8%	R1	△	現状では目標値を下回る結果となったが、市道整備と林道整備の一体的な実施により、農業生産額が増加するなど、農林産物の流通活性化効果があったものとする。
	指標 3	「市民生活や企業活動を支える自動車が円滑に走る道路が整っているまち」として満足している市民の割合の増加（整備地区）	30.4%	H23	33.4%	H29	41.5% (H28)	35.4%	H31	45.2%	R1	○	市道整備の効果として、幹線道路等へのアクセス強化が図られ、目標を達成できた。
	指標 4	素材（木材）生産量の増進	33,300 m ³	H21-H25	34,300 m ³	H27-H29	43,800 m ³	35,300 m ³	H27-H31	47,344 m ³	H27-R1	○	林道と市道の一体的な整備により、木材搬出経路の強化が図られ、目標を達成できた。
	指標 5	事業実施箇所における月平均交通事故総件数の減少	1.10件	H20-H24	1.01件	H29	1.33件	0.92件	H31	0.50件	R1	○	市道整備により、道路交通環境の安全性が向上し、目標を達成できた。
②地域再生計画に記載した数値目標以外の波及効果の実現状況	指標 1	豊田市の住みよさ（豊田市全域）	73.3%	H26	—	H28	72.3%	—	—	74.7%	R1	良 (H26比)	市道と林道の一体的な整備による効果として、市民生活の移動経路が強化され、住みよさを感じる市民の割合が増加。
	指標 2	豊田市の住みよさ（過疎地域）	64.5%	H26	—	H28	67.7%	—	—	68.7%	R1	良 (H26比)	市道と林道の一体的な整備による効果として、市民生活の移動経路が強化され、住みよさを感じる市民の割合が増加。
	指標 3	豊田市や居住地域への愛着（豊田市全域）	73.6%	H26	—	H28	76.7%	—	—	77.0%	R1	良 (H26比)	市道と林道の一体的な整備による効果として、市民生活に身近な移動経路の快適性が向上し、豊田市や居住地域への愛着を感じる市民の割合が増加。
	指標 4	豊田市や居住地域への愛着（過疎地域）	67.6%	H26	—	H28	81.1%	—	—	80.1%	R1	良 (H26比)	市道と林道の一体的な整備による効果として、市民生活に身近な移動経路の快適性が向上し、豊田市や居住地域への愛着を感じる市民の割合が増加。
	指標 5	快適な住環境が整備されているまち（豊田市全域）	29.1%	H26	—	H28	32.4%	—	—	33.6%	R1	良 (H26比)	市道と林道の一体的な整備による効果として、市民生活に身近な移動経路の安全性・快適性が向上し、快適な住環境が整備されていると感じる市民の割合が増加。
	指標 6	快適な住環境が整備されているまち（過疎地域）	18.4%	H26	—	H28	20.9%	—	—	22.8%	R1	良 (H26比)	市道と林道の一体的な整備による効果として、市民生活に身近な移動経路の安全性・快適性が向上し、快適な住環境が整備されていると感じる市民の割合が増加。
	指標 7	農業産出額（豊田市全域）	873千万円	H26	—	H28	920千万円	—	—	902千万円	H30	良 (H26比)	市道と林道の一体的な整備により、農産物の流通経路が強化され、農業産出額が増加。
	指標 8	市内で採れた農産物を購入するよう心がけている市民の割合（過疎地域）	71.4%	H26	—	H28	69.5%	—	—	70.4%	R1	維持 (H26比)	現状はほぼ横ばいの結果となったが、市道と林道の一体的な整備により、農業産出額が増加するなど、農林産物の流通活性化効果はあったものとする。
	指標 9	市民生活や企業活動を支える自動車が円滑に走る道路が整っているまち（豊田市全域）	41.2%	H26	—	H28	45.7%	—	—	46.6%	R1	良 (H26比)	市道と林道の一体的な整備により、市民生活や企業活動における道路ネットワークが強化され、道路が整備されていると感じる市民の割合が増加。
	指標 10	市民生活や企業活動を支える自動車が円滑に走る道路が整っているまち（過疎地域）	31.2%	H26	—	H28	31.9%	—	—	33.0%	R1	良 (H26比)	市道と林道の一体的な整備により、市民生活や企業活動における道路ネットワークが強化され、道路が整備されていると感じる市民の割合が増加。
	指標 11	森づくり会議・団地の設置状況（豊田市全域）	1,071.9ha	H21-H25	—	H27-H29	1,133.3ha	—	—	1,074.8ha	H27-R1	良 (H21-H25比)	木材生産事業地の集約化を目的とした団地化促進プロジェクトの推進により、森づくり会議・団地の設置面積が増加。
	指標 12	森林ボランティア構成員数（豊田市全域）	142人	H21-H25	—	H27-H29	180人	—	—	180人	H27-R1	良 (H21-H25比)	森林ボランティア団体の森林整備活動に対する支援制度等により、森林ボランティア構成員数が増加。

地域再生計画（地方創生道整備推進交付金）事後評価調書

都道府県名	愛知県	事業実施主体	愛知県、豊田市	地域再生計画名	とよた「暮らし満足都市」地域交流計画
計画期間	平成27年度～令和元年度	評価責任者	豊田市建設部 部長 岡本哲志		

②地域再生計画に記載した数値目標以外の波及効果の実現状況	指標 13	森林が健全に保全されているまち（豊田市全域）	17.6%	H26	—	H28	27.1%	—	—	26.6%	R1	良 (H26比)	林道整備及び木材生産事業地の集約化を目的とした団地化促進プロジェクト等の取組効果として、林業への理解が深まり、森林が健全に保全されていると感じる市民の割合が増加。
	指標 14	森林が健全に保全されているまち（過疎地域）	18.4%	H26	—	H28	29.2%	—	—	27.7%	R1	良 (H26比)	林道整備及び木材生産事業地の集約化を目的とした団地化促進プロジェクト等の取組効果として、林業への理解が深まり、森林が健全に保全されていると感じる市民の割合が増加。
	指標 15	交通事故発生件数（豊田市全域）	2,146件	H22-H26	—	H27-H29	1,957件	—	—	1,774件	H27-R1	良 (H22-H26比)	市道整備により道路交通環境の安全性が向上し、交通事故発生件数が減少。
	指標 16	交通事故死者数（豊田市全域）	15.8人	H22-H26	—	H27-H29	14.7人	—	—	13.8人	H27-R1	良 (H22-H26比)	市道整備により道路交通環境の安全性が向上し、交通事故死者数が減少。
	指標 17	交通事故発生件数-出会い頭事故（整備地区）	6件	H25-H26	—	H27-H28	1件	—	—	1件	H30-R1	良 (H25-H26比)	市道整備により道路交通環境の安全性が向上し、整備地区における出会い頭事故の発生件数が減少。
	指標 18	交通事故発生件数-歩行者・自転車関連事故（整備地区）	6件	H25-H26	—	H27-H28	1件	—	—	2件	H30-R1	良 (H25-H26比)	市道整備により道路交通環境の安全性が向上し、整備地区における歩行者・自転車関連事故の発生件数が減少。
	指標 19	交通事故発生件数-20歳未満事故（整備地区）	6件	H25-H26	—	H27-H28	0件	—	—	3件	H30-R1	良 (H25-H26比)	市道整備により道路交通環境の安全性が向上し、整備地区における20歳未満事故の発生件数が減少。
	指標 20	交通事故発生件数-65歳以上事故（整備地区）	4件	H25-H26	—	H27-H28	1件	—	—	3件	H30-R1	良 (H25-H26比)	市道整備により道路交通環境の安全性が向上し、整備地区における65歳以上事故の発生件数が減少。

地域再生計画（地方創生道整備推進交付金）事後評価調書

都道府県名	愛知県	事業実施主体	愛知県、豊田市	地域再生計画名	とよた「暮らし満足都市」地域交流計画
計画期間	平成27年度～令和元年度	評価責任者	豊田市建設部 部長 岡本哲志		

③事業の進捗状況	事業名	整備量（その他の事業では取組内容）			事業の進捗状況に関する評価
		計画	中間年度（H29）	最終実績	
特別の措置を適用して行う事業	市道整備事業（整備延長）	11,110m	3,889m	7,920m	<p>【達成されたこと】 「事業実施箇所における月平均交通事故総件数」が、基準値の半数以下となるなど、事業実施箇所での交通事故件数が大きく減少しており、安全な道路交通環境の向上に寄与した。 「市民生活や企業生活を支える自動車が円滑に走る道路が整っているまち」として、満足している市民の割合が基準値（30.4%）に比べ約15%増加（45.2%）となっており、快適な道路交通環境の向上に寄与した。</p> <p>【今後の課題】 整備効果の更なる向上に向け、用地取得や関連事業との調整により、整備が遅れている路線の早期整備が必要である。 また、道路整備に対する市民の満足度は向上しているものの、依然、道路整備のニーズは高く、引き続き計画的な市道整備が必要である。</p>
	林道整備事業（整備延長）	7,820m	3,837m	6,700m	<p>【達成されたこと】 「素材（木材）生産量」の増加や、「森林が健全に保全されているまち」に対する満足度が向上しており、森林施業の効率化や、森林施業に対する理解の醸成が図られるとともに、既存道路との広域道路ネットワークが整備され、林業振興に寄与した。</p> <p>【今後の課題】 都市部と山村部の交流の活性化、回遊性の向上や森林の保全、林業振興に向けた整備を進めているものの、十分に整備されているとはいえない状況であり、引き続き、計画的な事業推進が必要である。</p>
その他の事業	農産物直売所推進事業	市内で採れた農産物の地産地消を推進するため、農産物直売所連絡会及びファーマーズマーケット定期市の広報活動やイベント支援等の販売促進の支援を行う。			本事業を通じて、山村部の価値や魅力、市内で採れた農産物の良さを広くPRすることができたが、更なる農産物の認知度の向上及び地産物の流通・消費促進を目指し、引き続き取組を継続していきたい。
	木材生産事業地の集約化を目的とした団地化促進プロジェクト	事業地を集約化することにより、伐採経費を低減するとともに、素材生産の効率化を図り、豊田市産材の素材生産量の向上を図る。			事業地の集約化により、伐採経費が低減され、素材生産量の向上を図ることができた。さらに中核製材工場の稼働と合わせて、さらなる地域材の安定的な供給体制の構築を進めていきたい。
	木材利用施設整備支援事業	「豊田市公共建築物等の木材利用の促進に関する基本方針」に基づき、民間事業者が整備する公共建築物の整備に対する交付金等の木材利用支援を行う。			木材利用を促進したことにより、森林資源の循環利用を進めることができた。
	交通安全教育推進事業	段階的・体系的な交通安全教育を推進するため、交通安全学習センターにおいて幼児から高齢者まで世代ごとの交通安全講習等を行うなど、交通ルールやマナー、交通安全意識の向上のための取組を推進する。			ハード整備に加え、段階的・体系的な交通安全教育推進事業の実施により、交通事故発生件数の減少につながったものと考えている。
計画外で独自に実施した事業	中核製材工場誘致事業	製材工場の事業用地の造成及び原木の安定供給に向けた仕組みを構築			地域材の加工流通体制の構築により、木材の安定供給や林業の振興、農山村地域における雇用の拡大につながったものと考えている。
④評価方法	事後評価委員会を設置し、委員への意見聴取により、最終目標値の実現状況に関する評価、今後の方針等に係る検討等を行った。				
⑤事後評価の公表方法	豊田市土木課のホームページに掲載				
⑥計画全体の総合評価	<ul style="list-style-type: none"> ・用地取得や関連事業等の影響により、一部の事業で進捗の遅れがあったが、事業の進捗に応じた年度間調整など、整備段階に応じた予算措置が実施できたため、安全で快適な道路交通環境の向上や農林産物の流通活性化などの効果が概ね発現できたと考えている。 ・また、道整備交付金を活用した市道と林道の一体的な整備の推進に加え、「交通安全教育推進事業」や「木材生産事業地の集約化を目的とした団地化促進プロジェクト」など、独自の取組により、安全で快適な道路交通環境の向上や、森林施業の効率化による林業振興などの整備効果を、より効果的に発現させることができたと考えている。 				
⑦今後の方針等	<ul style="list-style-type: none"> ・本地域再生計画においては、整備の推進により、安全で快適な道路交通環境の向上や農林産物の流通促進が図られ、目標を概ね達成した。 ・一方で、本計画の対象路線は都市部と農山村部の交流促進や農林産物の流通効率の向上に必要な路線の一部である。このため、引き続き豊田市独自事業と連携して整備を推進し、社会経済環境の変化を捉えながら、さらなる都市部と農山村部との交流促進、農山村地域の振興、ひと・ものの円滑で快適な移動を支える道路整備などにより、市域全体の魅力向上に取り組んでいく。 				